

受験
番号

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

2019 年度

第3回 会社決算書アナリスト試験

問題用紙

(試験時間 1 時間 30 分)

—受験者への注意事項—

1. 試験開始の合図があるまで、問題用紙は開かないでください。
2. 解答は、定められたところに、誤字・脱字のないよう、ていねいに記入してください。
3. 答案の記入にあたっては、黒鉛筆または黒シャープペンを使用してください。
4. 受験番号は、右寄せで記入してください。受験番号・氏名を記入していない場合は、採点の対象とならない場合があります。

第1問 次の1. から10. の文章について、正しいものには「○」、誤っているものには「×」を解答欄に記入しなさい。

1. 当期純利益1億円の企業と2億円の企業を比較し、1億円の企業経営者の方が良い業績を上げたと言うためには、比率分析（関係比率分析）の手法によれば良い。
2. 使用資産経常利益率の使用資産の計算において、新製品の製造を目指して製作中の機械を含む建設仮勘定を排除してはならない。
3. 営業資産営業利益率の営業利益の計算において、営業上必要な運転資金の借入れ費用つまり支払利息も含まれる。
4. コンビニにおいて、売上高営業利益率が低くなったつまり悪化した場合、アルバイト店員の時給を高くし待遇を良くしたことも原因の一つになる。
5. 固定長期適合率は、固定資産が安全な資金源泉から得られているかを見る指標であり、パーセントで示され、高い方が安全性は高いと診断される。
6. 固定資産回転率の総収益の計算においては、貿易摩擦により操業停止に陥った工場用地の売却益など特別利益は排除しなければならない。
7. 流動比率（銀行家比率）が変わらないにも関わらず、当座比率(酸性試験比率)が悪化したとき、営業上欠かせない棚卸資産の増加が原因の一つになる。
8. 我が国において企業経営に求められているROE（株主資本当期純利益率）8%を達成するためには、日銀の低金利政策の下では、資本の構成を変え、純資産負債比率を悪化させることによっても可能となる。
[注] ROE8%達成目標はいわゆる「伊藤レポート」により求められるようになった。
9. 安定配当（1株当たり配当金を一定額に固定化する）政策を採っている企業において、当年度の当期純利益が前年度より悪くなると、配当性向は前年度に較べ高くなる。
10. フリー・キャッシュ・フロー（FCF）は、営業活動によるキャッシュ・フローと財務活動によるキャッシュ・フローを加算（合計）した値であり、将来の利益獲得のための投資活動に自由に向けられる資金の金額を示している。

第2問

M社について、20X1年度末（前期末）に経営陣が一新され、新経営陣が、近年伸びている同業他社のビジネススタイル（経営政策）を意識し、そのスタイルを大きく変えた結果、企業業績が低迷し始めたとのニュース報道がなされている。これに対し、新経営陣は、企業業績の根幹をなす売上高は昨年度に比べ、およそ1.1倍、増加していると主張し反論している。これに興味を持ったあなたは、M社の実際の財務諸表を入手し、財務指標にどのような変化が起きたのかを分析し、新経営陣が変化させたビジネススタイルを評価することにした。

なお、解答を円滑に導くために、当期（20X2）末の財務諸表の実際の数値の一部に微調整を加えている。

<資料>に示した財務諸表（M株式会社：製造小売業）により、次の問1から3に答えなさい。なお、会計期間は1年間であり、当期は20X1年4月1日に始まり20X2年3月31日に終了する1年間である。

（注意事項）

1. 各指標について、数値は算出結果のみを解答すること（計算式は不要）。
2. 答は、最終数値の小数点第2位を四捨五入し、第1位までを解答すること。
例えば、9.44%の場合は、「9.4%」、7.46回の場合は「7.5回」と解答する。
3. マイナスの場合には、数値の前に「△」をつけること。例えば、マイナス9.5%の場合には、「△9.5%」と解答する。

問1 分析の手始めとして、M社の全社的なもうけ度の変化を把握するため、前期および当期の総資産当期純利益率（ROA）を計算した。各指標の値を求めなさい。

問2 ROAをみると、報道のとおり、指標は悪化（低下）していることが確認できた。続けて、ROAに変化をもたらした原因が何であるのかについて、総収益当期純利益率（利益率）と総資産回転率（回転率）に分解し分析することとした。それぞれの指標を求めなさい。

- ① 総収益当期純利益率
- ② 総資産回転率

問3 上の分析の結果、利益率は悪化していることがわかった。これは、ビジネススタイルの変更による結果を示すものといえるが、さらに、新経営陣の言う肝心の企業業績の根幹をなす営業活動を詳しく分析する必要がある。そこで、前期と当期の①売上高売上総利益率（利益率）および②棚卸資産（商品）回転率（回転率）を計算しなさい。

また、M社が新たに採用したビジネススタイルと、その成果が上げられなかった理由を説明した文章中、A、Bにあてはまる語句として適当な記号を選択しなさい。

なお、M社（旧経営陣）は伝統的に高付加価値商品を販売する経営姿勢（老舗デパートのビジネススタイルを意識し、対面販売による高価格の商品を販売するスタイル）を採ってきたことでも有名であった。

採用したビジネススタイルとその成果が上げられなかった理由	新たに（A：ア 高付加価値・イ 薄利多売）のビジネススタイルを採用したが、このスタイル成功の要素である（B：ア 利益率の低下を補うだけの回転率を上げられなかったため・イ 回転率の低下を補うだけの利益率を上げられなかったため）業績アップにつながらなかった。
------------------------------	---

<資料>

M社の要約貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (20X1年3月31日)	当連結会計年度 (20X2年3月31日)		前連結会計年度 (20X1年3月31日)	当連結会計年度 (20X2年3月31日)
資産の部			負債の部		
流動資産			流動負債		
現金及び預金	28,826	20,140	支払手形及び買掛金	42,202	28,540
受取手形及び売掛金	36,704	25,600	電子記録債務	15,616	16,500
有価証券	1,260	100	短期借入金	615	200
商品	12,119	6,520	1年内返済予定の長期借入金	1,680	1,418
その他	11,441	7,845	未払金	6,971	3,320
貸倒引当金	△ 185	△ 186	未払法人税等	2,142	1,709
流動資産合計	90,165	60,019	賞与引当金	302	145
固定資産			販売促進引当金	443	484
有形固定資産			返品調整引当金	20	28
建物及び構築物	19,885	25,100	資産除去債務	68	126
減価償却累計額	△ 3,484	△ 4,293	その他	2,298	2,651
建物及び構築物(純額)	16,401	20,807	流動負債合計	72,357	55,121
機械装置及び運搬具	5,186	6,850	固定負債		
減価償却累計額	△ 2,126	△ 2,569	長期借入金	5,070	1,780
機械装置及び運搬具(純額)	3,060	4,281	退職給付にかかる負債	2,304	2,832
土地	6,543	8,563	リース債務	6,495	4,591
リース資産	8,922	7,101	賞与引当金	107	60
減価償却累計額	△ 1,980	△ 2,038	役員賞与引当金	88	2
リース資産(純額)	6,942	5,063	火災損失引当金	2	52
その他	3,382	3,443	資産除去債務	1,237	1,470
減価償却累計額	△ 2,435	△ 2,599	その他	639	690
その他(純額)	947	844	固定負債合計	15,942	11,477
建設仮勘定	215	3,256	負債合計	88,299	66,598
有形固定資産合計	34,108	42,814	純資産の部		
無形固定資産			株主資本		
ソフトウェア	3,976	4,430	資本金	21,200	21,150
ソフトウェア仮勘定	562	901	資本剰余金	23,680	27,383
のれん	3,519	2,812	利益剰余金	19,377	16,412
その他	10	11	自己株式	△ 13,079	△ 9,885
無形固定資産合計	8,067	8,154	株主資本合計	51,178	55,060
投資その他の資産			その他の包括利益累計額		
投資有価証券	1,639	2,499	その他有価証券評価差額金	1	2
長期前払費用	184	173	繰延ヘッジ損益	△ 19	△ 2
差入保証金	3,706	4,324	為替換算調整勘定	26	25
繰延税金資産	1,668	3,790	退職給付にかかる調整累計額	△ 89	△ 74
その他	123	84	その他の包括利益累計額合計	△ 81	△ 49
貸倒引当金	△ 120	△ 77	新株予約権	25	17
投資その他の資産合計	7,200	10,793	非支配株主持分	119	154
固定資産合計	49,375	61,761	純資産合計	51,241	55,182
資産合計	139,540	121,780	負債純資産合計	139,540	121,780

関連資料：前々期末時点(20X0年3月31日)における総資産の金額は150,200千円、商品の金額は13,150千円であった。

M社の要約損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 20X0年4月1日 至 20X1年3月31日)	当連結会計年度 (自 20X1年4月1日 至 20X2年3月31日)
売上高	320,025	352,028
売上原価	240,630	298,520
売上総利益	79,395	53,508
販売費及び一般管理費	61,810	43,200
営業利益	17,585	10,308
営業外収益		
受取利息	54	29
売電収入	31	46
棚卸資産処分益	7	15
助成金収入	11	14
補助金収入	102	32
その他	32	50
営業外収益合計	237	186
営業外費用		
支払利息	85	108
売電費用	33	36
支払手数料	32	11
その他	54	42
営業外費用合計	204	197
経常利益	17,618	10,297
特別利益		
投資有価証券売却益	292	50
債務免除益	66	2
新株予約権戻入益	55	63
その他	50	61
特別利益合計	463	176
特別損失		
減損損失	30	2
固定資産圧縮損	875	13
固定資産除去損	167	35
投資有価証券評価損	43	563
その他	18	326
特別損失合計	1,133	939
税金等調整前当期純利益	16,948	9,534
法人税、住民税及び事業税	3,334	3,060
法人税等調整額	54	△ 1,940
法人税等合計	3,388	1,120
当期純利益	13,560	8,414
非支配株主に帰属する当期純利益	34	34
親会社株主に帰属する当期純利益	13,526	8,380

第3問

AさんとBさんは、製造業であるZ社の経営コンサルタントをしている。次の二人の会話について、問1から問3に答えなさい。なお、会話に関係するZ社の財務データは<資料>に示す通りである。

(注意事項)

1. 指標について、数値は算出結果のみを解答すること（計算式は不要）。
2. 答は、小数点が出ない場合には、そのまま答え、小数点が出た場合には、最終数値の小数点第2位を四捨五入し、第1位までを解答すること。例えば、算出結果が9.48%となった場合、「9.5%」、7.46回となった場合、「7.5回」と解答する。

<資料> Z社の財務データ

(単位：千円)

貸借対照表			
	20X0年度末	20X1年度末	20X2年度末
流動資産	800,200	800,000	800,500
売上債権	240,000	257,000	310,000
流動負債	328,000	341,000	339,500
仕入債務	75,500	78,400	61,000
損益計算書			
	20X1年度		20X2年度
売上高	2,125,000		2,240,000
売上原価	1,105,000		1,165,000
キャッシュ・フロー計算書			
営業活動によるキャッシュ・フロー	356,000		321,000

Aさん 「営業活動の資金繰りは、流動比率を始めとして企業全体の資金繰りの基礎になるので、今日は、Z社の営業活動の資金繰りを診断してみましょう。まず、今年度（20X2年度）と前年度（20X1年度）の売上債権回転率は、どのような状態ですか。」

Bさん 「20X1年度の売上債権回転率は（①）回、20X2年度の売上債権回転率は（②）回です。売上高は伸びており、これは良い状態になっているのですが、営業上の資金繰りでは問題が生じていると言えますね。」

Aさん 「それでは、今度は、営業上の資金繰りの一方の側面である仕入債務回転率も分析してみましょうか。20X1年度の仕入債務回転率は（③）回、20X2年度は（④）回ですね。これをみると、決済はうまく行っているようで、問題はないようですね。」

Bさん 「そのようにも見ることはできますが、しかし、売上債権回転率と仕入債務回転率の関係をみてみると、気になるところがあります。それは[ア]点です。この結果、支払能力に悪影響を及ぼしている可能性がありますね。」

Aさん 「それでは、流動比率を見てみましょう。20X1年度は（⑤）%、20X2年度は（⑥）%です。これを見る限り、問題にならないのではないのでしょうか。」

Bさん 「確かに、会社全体の流動性には問題が無いと言えますね。ただ、今、見ているのは、営業活動の資金繰りですよ。営業活動に焦点を絞った具体的な指標に着目する必要がありますよ。そこで、流動負債営業キャッシュ・フロー比率を計算してみました。20X1年度は（⑦）%、20X2年度は（⑧）%となりました。指標は悪化していますね。」

Aさん 「確認ありがとうございます。この指標が100%を下回ったということは、財務活動や投資活動からのキャッシュ・フローが[イ]の返済にあてられることを暗示していますね。この資金の手当ては、仕入部門以外の部門が負担することになりましょう。仕入部門の部長には、材料調達だけでなく、その資金繰りにも気を配る必要があることをアドバイスする必要がありますね。今度の経営会議で、コンサルタントとして、この点を指摘しましょうか。」

問1 対話の中にある①から⑧の値を計算しなさい。

問2 会話中の [ア] に当てはまる文章として適切なものの番号を記入しなさい。

1. 仕入債務の決済スピードが売上債権の回収スピードを上回っている
2. 仕入債務の決済スピードが売上債権の回収スピードを下回っている

問3 会話中の [イ] に当てはまる言葉として適切なものの番号を記入しなさい。

1. 仕入債務
2. 流動負債
3. 固定負債

第4問

Pさんの孫であるあなたQは、これからの時代、長生きすると年金が危なくなるのではないかと心配し、株式投資を考え始めたおじいちゃんPから株式投資の相談を受けた。次の会話の中に入る [ア] から [エ] には適切な語句を下に示した語群から選び解答欄に書き入れ、(①) から (④) には数値を計算し入れなさい。

語群	配当性向	株価収益率	配当利回り	株価純資産倍率
----	------	-------	-------	---------

(解答にあたっての注意事項)

1. 指標について、数値は算出結果のみを解答すること (計算式は不要)。
2. 答は、最終数値の小数点第2位を四捨五入し、第1位までを解答すること。例えば、算出結果が9.48%となった場合、「9.5%」、7.46回となった場合、「7.5回」と解答する。

<資料> S社の資料の「・・・」の金額については、会話の中で計算した値を示しているのに、株価を除いて示していない。

	S 社	T 社
株 価	1,395 円	1,150 円
1株当たり純資産(BPS)	・・・ 円	1,140 円
1株当たり当期純利益(EPS)	・・・ 円	102 円
1株当たり配当金(DPS)	・・・ 円	29 円

[注] 解答は、この資料に基づき行うこととし、他の複雑な問題は考えない。

Pさん 「証券会社に行ったのだけど、さっぱり話がわからないよ。とくに『割安、割高』と言われるのだけど、割安なら、安いだから、買った方がいいのかな。」

Qさん 「割安、割高というのは、一般に、二つの指標で言うんだよ。一つは [ア] と言って、市場の評価である株価と会計情報である純資産とを比較したもの、もう一つは [イ] と言って、株価と企業の稼ぎ、当期純利益とを比較した指標だよ。おじいちゃんが証券会社の人からもらったS社とT社の<資料>で計算してみようか。S社の [ア] は1.5倍、T社のそれは (①) 倍、S社の [イ] は10.7倍、T社のそれは (②) 倍と算出されるんだよ。[ア] では、S社の指標が高いので割高、[イ] では、今度はS社が低いので割安と言われるんだよ。」

Pさん 「何だよ。それは。」

Qさん 「ところで、おじいちゃんは毎日、株を売り買いするつもり？」

Pさん 「いや、違うよ。おじいちゃんの時代には、郵便局の定額貯金をすると、10年で倍になったが、今は、アベノミクスとか言って低金利なので、何かいい運用先がないかと思ったんだ。人生100年と言われ長生きしてしまうと、今の状態では、年金は不安だし、年金の補助として、運用益を受け取れる投資を考えているんだよ。お前たちはもっとそうだと思うんだがなー？」

Qさん 「それなら、[ウ] を考えようよ。計算すると、S社は2.2%、T社は (③) %だから、僅かだけどT社の方がいいよね。ただ、これだけでは不安だから、当期純利益のうちどれだけを株主に還元したか、つまり [エ] もみておこうよ。S社は28.5%、T社は (④) %だから、これはそんなに差がないね。」

